

配信先：大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会、科学記者会

2025年4月24日

大阪公立大学

お笑いコンテスト番組のデータから判明！ 競争率が低い場合は1番手が最も有利

<ポイント>

- ◇テレビ番組のお笑いコンテストの結果データを利用し、演技の順番が審査員の評価に与える影響を検証。
- ◇10組中5組の合格者を決める競争率の低いコンテストでは、1番目の演者が最も有利であると判明。
- ◇より公平な審査システムを設計するための重要な知見を提供することが期待される。

<概要>

大阪公立大学大学院経済学研究科の岡澤 亮介准教授らの研究グループは、NHK「爆笑オンエアバトル」で1999年～2014年に実施された約500回のお笑いコンテストの結果データを用いて、演技の順番が審査員の評価に与える影響を検証しました。この番組では、10組の若手お笑いタレントがくじ引きにより決められた順番で演技を行い、100人の審査員が合否を判定します。最終的に10組中5組のみが合格となり、ネタが放映されます。データを分析した結果、1番目の演者は他の順番の演者と比べて得票率が約5%～10%高く、最も有利であることが判明しました。演技順が後の方が有利であるという先行研究の報告とは異なる結果になった理由は、本研究対象が10組中5組の合格者を決める競争率の低いコンテストで、1番目の演者は平均的な評価を受けやすいことが有利に働いたためであると考えられます。本研究結果は、より公平な審査システムを設計するための重要な知見を提供すると期待されます。

本研究成果は2025年4月22日に、国際学術誌「Journal of Economic Behavior & Organization」にオンライン掲載されました。

<研究者からのコメント>

この研究はテレビで「M-1グランプリ」の出演順がくじ引きで決められているのを見たことがきっかけで生まれました。その後、「爆笑オンエアバトル」のコンテストデータがあることを知り、研究に着手しました。

「人々の選択」について考えることは経済学の大きなテーマで、私たちの生活の身近な話題も研究の対象となりえます。この研究を通じて経済学の面白さが少しでも伝われば嬉しいです。



岡澤 亮介准教授

<研究の背景>

本研究は、お笑いコンテストのテレビ番組、NHK「爆笑オンエアバトル」の結果データを用い、演技の順番が審査員の評価にどのような影響を与えるのかについて、統計学的に精度の高い分析を行うことを目的としました。

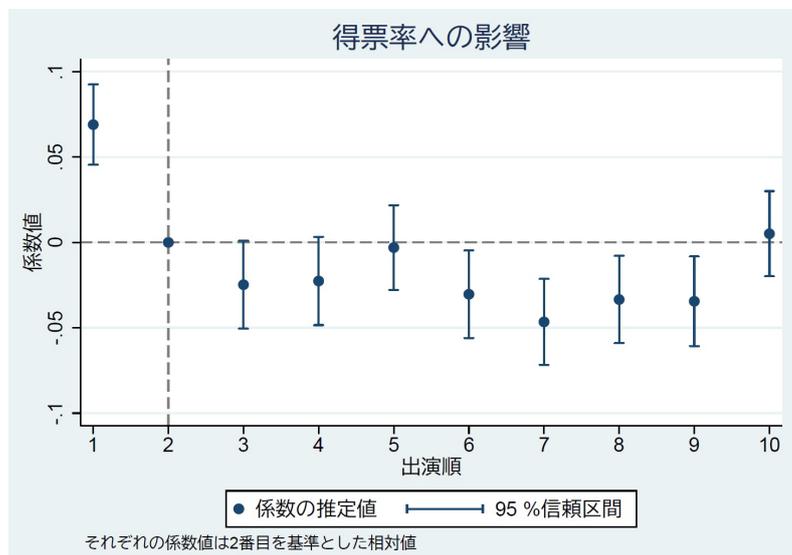
<研究の内容>

本研究では、評価対象が提示される順番が人々の評価や選択に与える影響を明らかにしました。分析には、テレビ番組のお笑いコンテストを「順番の影響を検証するための実験」と見なして分析する自然実験^{*1}と呼ばれる手法を用いました。順番が抽選で無作為に決まることにより、出番の早い演者と遅い演者の間に能力や人気などの偏りが無いデータを得ることができました。また、約 500 回のコンテストの結果データは、通常の実験で得られるサンプル数と比べて非常に多く、順番の効果を検証するのに理想的なデータといえます。データを分析した結果、「1 番初めに出演する演者が評価を受ける上で最も有利である」という事実が判明し、1 番手になることによって他の順番と比べて約 5%~10%高い得票率を得ることが分かりました。

先行研究ではコンテストにおいて演技順が後の方が有利であるという報告が多く、結果の違いが生じた理由を探求するために、演技順が審査員の評価に影響する理由（メカニズム）について考察しました。そして、演技ごとに評価を行う審査システムでは「審査員は後の審査における自由度を残すために、初めは無難で平均的な評価を与える傾向にある」というカリブレーション効果^{*2}が影響しているという仮説を提示しました。コンテストの目的が優勝者など少数の勝者を選ぶものであれば、1 番目の演者は平均的な評価を受けることによって不利になると考えられます。しかし本研究対象のコンテストは、10 組中 5 組の合格者を決める競争率の低い環境のため、1 番目の演者は平均的な評価を受けることにより有利になったと考えられます。

<期待される効果・今後の展開>

評価対象の順番や配置が人々の選択や評価に意図しない形で影響を及ぼすという指摘は、行動経済学や心理学のいくつかの研究において、既に指摘されています。しかし、本研究における 1 番目の演者が最も有利な評価を受けるという発見は、先行研究とは異なり、順番の効果が評価者の目的や状況によって変わることを示唆しています。順番や配置が人間の選択や評価にどのような先入観を与えるかをより深く理解するためには、さらに多くの検証が必要です。そのような研究の蓄積は、正しい選択をするためや、より公平な審査システムを設計するための重要な知見を提供することが期待されます。



図：出演順が成績（得票率）に与える影響
1 番～10 番のそれぞれの順番に割り当てられることによる得票率への影響の推定値を示す。

<資金情報>

本研究は日本学術振興会の科研費（JP18K01658、JP23K02413）の助成を受けて実施しました。

<用語解説>

- ※1 自然実験：意図的に研究者が介入するのではなく、自然や社会の変化によって偶然生じた状況を利用して因果関係を明らかにする研究手法。くじ引きや自然現象など、ある要因が特定の人やグループにランダムに割り当てられる状況を利用することにより、その他の要因の影響が分析にバイアスをもたらす可能性を排除することができる。
- ※2 カリブレーション効果：評価の幅が限られており、後に現れる選択肢の質が不確かな場合、評価者が将来の判断の余地を残すために極端な評価を避け、無難な中間評価を選びやすくなる傾向のこと。これは、早い段階で極端な評価をつけてしまうと、後に適切な評価ができなくなり、自由度が失われることへの懸念による。

<掲載誌情報>

【発表雑誌】 Journal of Economic Behavior & Organization

【論文名】 Is it advantageous to be first? Evidence from a TV comedy program

【著者】 Real Arai, Ryosuke Okazawa

【掲載 URL】 <https://doi.org/10.1016/j.jebo.2025.107009>

【研究内容に関する問い合わせ先】

大阪公立大学大学院経済学研究科
准教授 岡澤 亮介（おかざわ りょうすけ）
TEL：06-6605-2286
E-mail：okazawa@omu.ac.jp

【報道に関する問い合わせ先】

大阪公立大学 広報課
担当：谷
TEL：06-6967-1834
E-mail：koho-list@ml.omu.ac.jp